第４回　池田市地域分権検討会議

（議　事　録）

日　時：平成２８年１０月１５日（土）１０：００～１１：４５
場　所：池田市役所３階　議会会議室
出席者：＜各委員＞白水・橋口・久・吉弘（敬称略・五十音順）
　　＜事務局＞松浦・野村・北村・金澤

１．開会
　出席者報告、傍聴者数報告（１名）

２．議題
①答申の素案について
＜事務局＞
【配布資料説明】
＜委　員＞
　まず「課題・問題点」のところ。各協議会ごとに取り組みや意識に差異がうまれているというところが問題点として挙げられているのですが、私はむしろ当然じゃないかなと思います。与えられた制度として同じなので、制度をどう利用するかはあなたたちの力ですよと。まず市が最初にこの制度をつくることによって、住民とどういう応答をしたいのか、そしてその機能はどこなのかということをはっきり定義した後に、はじめて制度自体が期待される役割がはっきりわかってくる。個人的には差異は当然うまれるし、うまれる差異については逆にある意味でいうと住民の組織のニーズなんだといってもいいのかなと思います。
＜委　員＞
　認知度のところ、協議会のことは知らなくても、プロジェクトの事は知っているとか、そういう認識の齟齬みたいものがあって、実はプロジェクトでこういう事をやっているんだということは知っているんだけれども、それを誰がやっているかは知らない。自治会とかがやっているんじゃないのと認識のずれが生じているかもしれない。となると３８％というものよりも、取り組みの状況に関しては認知度は高いんじゃないかなという気もするんですね。認知度３８％は低いねと言い切っちゃうと、さも何もやっていないのでもっと頑張らなきゃという形になるんですけど、実は器の事ってそんなに関心が無いんじゃないかと思う。
＜委　員＞

この評価や課題・問題点の所で、行政の評価がどうなのか。例えば、新しい公共という概念がありますけども、その本当に新しい公共という概念を市役所あるいは市職員全員が共有できているかどうか。それは市がやるべき事なのか、地域がやるべきことなのかということを切り分けていくというのが、新しい公共の考え方。そのあたりの根本的な観点が本当に池田市役所あるいは池田市役所職員全員が議論して共有出来ているのかどうか。もっと根本的な話で市長の思いは強いと思うんですが、市長が根底で何を考えてらっしゃって、どんなストーリーを持ってらっしゃるっていうのを全ての職員が共有できるのかどうか。

＜委　員＞

今後の方向性について、組織構成に柔軟性をもたせて、最低限持つべき機能、市がまず最低限この組織に何を必要としているのかということだけは、決めたほうがいいんじゃないかと思います。プラスαでいろんなことをやる事自体が凄く面白いと思うんですが、それを推奨していくとやっていないところはどうなるんだということになりかねないですし、そもそもそんなニーズを持っていないところは、別にやらなくても済む訳ですから。やりたいところはやってもらって、それを応援するのは良いんだけれども、ある程度組織のあり方というのは柔軟でもいいと思います。例えばこういう機能だけは、各組織が市の政策として、あるいは住民にとってプラスになるという点で果たしていこうというところをまず共有して、プラスαこんな活動しているところもありますよと例示していくのは良いと思います。それを見てじゃあこうやっていこうというところも出てくるでしょうから。

＜委　員＞

予算提案権には意思決定というものが非常にしっかりと必要なんですが、活動を担うというのはそれほど厳格な意思決定が無くても、やりたい人が集まって、自分たちのお金を持ち出しながら、あるいはお金をかけずに、楽しい活動を展開するという側面もあって、それをあまりにも意思決定だといってしまうと、そういう楽しいゆるやかな活動というのが、協議会の活動に入れこめなくなる危険性もあるので、そのあたりは、活動と意思決定というのは、うまく切り分けておく必要があるのかなと思います。

＜委　員＞

１０年経った今、そもそも予算提案権にこだわらずに、場合によっては、補助金や交付金といった形もありますよというところまで踏み込むかどうかというところが一つあるかと思います。あともう一つは、「いや実は予算提案権てすごいことなんだよ。」という考え方。自治体が予算を決定するというのは、基本的には議会と市役所という二つの関係なので、そこに市民のニーズを直接入れられるということは実はすごいことかもしれないので、そこをどう評価するかというところかと思います。市民のみなさんにメリットを問うて、どうだと判断してもらうことプラス、池田市民のみなさんが、市長がよく言われる「お任せ民主主義からの脱却」だとか、「自分たちのまちは自分たちでつくる」ということを、あらためて覚悟といいますか、されていく意志があるのでしょうかというところをみなさん

に確認するというところがあってもいいのかなという感じがしています。
＜委　員＞
　お金はいろんなお金があるわけです。その一つとして、この提案権で予算を使うというのもあるわけです。まず自主財源があります、それからもうすでに様々な部署から出ている、補助金・交付金というものもあります。さらに社会福祉協議会からの補助金というものもあります。そういうトータルな財布の中でこの提案制度をどう位置付けていくかということをやはり根本論として議論をする段階にきているのではないかと思います。そうすると他部局が持っている補助金・交付金システムをもう一度精査して、その中にこの予算提案制度を盛り込んでいくという必然性があるのかなと。各地で進められている包括交付金制度というのは、そういうトータルパッケージとして市が出してきたものをポンとお渡しをしましょうというやり方ですので、そこまでいくのかどうかということも含めながら、市から出している、あるいは公益団体としての社協から出しているものをいかに今後位置付けていくのかということも含めての議論をすべきであると思います。違う言い方をすれば、地域あるいは協議会と市の関係性をどのように再構築していくかということだと思います。予算提案制度というのは、今までに無いタイプの関係性の結び方で、私は今後もあってもいいのかなと思います。つまり提案だけはさせてもらう。でも市がやってください。という関係性は今まで日本の中でもまだまだやってこなかったことですから、今までの足らずの部分を補うという面では、意味があると思います。
＜委　員＞
　組織・体制のところで、今までの１０年間のことを振り返ってみると、地域にもいろんな、ＰＴＡとか自治会とか団体があって、それぞれ活動されているところにコミュニティ協議会が入ってくる。ここがもう一度、役割とか関係性を再整理することが必要かなと思います。二つ理由がありまして、一つは住民全体をまとめ上げるためという事と、もう一つは、それぞれの活動の効率をよくするためということ。同じことを別のところがするというのは、あまり効率が良くありません。一緒にした方が効果も上がりやすいという事を考えると、関係性というのをもう一度見直していくという事が必要になってくるのかなというところで、有効だなと感じるのが「統合型」「補完型」「支援型」という考え方。これが地域内での既存グループ、団体との関係のあり方だと思います。
＜委　員＞
　やっぱり進めやすいのは具体的な事例、具体的な案件を元に話をしていくと非常に連携を取りやすい。もう一点、将来的な課題として協議会の代表の選挙なども含めというところは、色々協議会の活動なんかをコミュニティビジネスなんかで活性化していく、なんか面白そうやなという事で人が自然と参加してもらえるような機運を醸成していくというか、長い目で見てというふうな事かなと個人的には思っています。それが無いからいきなり選挙だというと、なかなか荒っぽい。制度的にはいいかもしれませんけども、実質的にはそれでどうかというところがあります。

＜委　員＞

私も色んな地域をお手伝いしてきて段々分かってきた事があって、やっぱり道具とかあるいは会議のやり方っていうのが重要で、その道具、それから会議のやり方が変わっていけば、運営も変わってくる。ホワイトボードミーティングとかワークショップっていうやり方をまず伝授をする。これはネットワーク型、あるいはボトムワーク型なんですね。つまり白紙の状態からみんなで意見を出し合って、一定意見が出た中で集約をしながら意思決定にもっていくやり方。それは、会議の仕方を変える事によって意思決定の仕方が変わり、そしてそれが運営のあり方も、みんなで考えた方がみんなでやった方がたくさんの人が巻き込めるよっていう経験がでてくるので運営方法も変わる。その辺りが一つ根本論としてネットワーク型に切り替えていく必要があるんではないか。じゃあ市がどういう支援をしていくのかっていう事が、サポータ職員の環境整備しか入っていないんですけども、市の職員のサポートっていうのは非常に重要。それは中に入って仲良くやるんじゃなく、色んな技術やノウハウを提供するとか、あるいは最終形をきちんとイメージしながら段階・段階でサポートを変えていくようなスキルやノウハウがサポータ職員に無いといけない。誰がどの地域に入っても同じような事を考え、同じように動けるところまでスタッフ研修や情報交換会をやり続ける。これは非常に重要な話なんですね。市っていうのはあくまでもＮＰＯ業界でいわれている中間支援の立場だと思います。だから様々なスキルやノウハウを提供したり、あるいは地域の人達が自分たちで回していけるファシリテーションに努める。更に具体的に言うと、年に１回必ず協議会の活動報告会をする。それは何のためにやっているかというと、学び合いの機会を提供しているという事。他の地域ではどんな事をやっているのか、いい所取りをみんな出来るという事。たった年１回の報告会でもすごく効果が出ています。他地域での情報を得る事によって、取り入れられる事は取り入れてもらおうという形ですれば、面白い支援も出来ていく、そんな事も今後検討して頂ければと思います。

＜委　員＞

先ほど「統合型」「補完型」「支援型」話をしましたが、入り口としてはこの三つでスタートする事はありかと思うが、最終的には「統合型」がゴールだと思う。「統合型」にハレーションを起こす地域にとっては、入り口としてやり易いのは「補完型」。他組織を変えないで隙間に入り込めるという意味では「補完型」が一番やり易いでしょう。あるいは「支援型」というのも、うちの活動を応援してくれるんだなという事ですごくありがたられるので収まりがいい。最終型はやはり「統合型」。この「統合型」なんですけどもこれが階層組織型の統合をやってもらうと困るんですよね。だから、コアスタッフは支援型になってほしいんです。そこで組織体制としては「統合型」なんだけれども運営は「支援型」という、こういう組み合わせが最終型かなと私論としては持っています。

３．閉会